

〔指定管理者制度導入施設〕〔A調書〕
事業評価調書〔途中評価〕（令和7年度）

1. 施設の名称等

施設名称	長崎漁港（長崎地区）尾上町・漁港環境整備施設用地（おのうえの丘）	事業所管	水産部	漁港漁場課
所在地	長崎市尾上町	課（室）長名	城戸 学	

総合計画上の位置づけ	基本戦略	2-3	環境変化に対応し、第一次産業を活性化する
	施策	2	漁業所得の向上と持続可能な生産体制の構築
	事業群	—	

2. 施設の概要

設置年月日	平成 30 年 4 月 1 日						
設置法令等	長崎県漁港管理条例（昭和35年8月25日公布）						
設置目的	大規模災害時の防災拠点として整備されたものであり、平時は県民の憩いと賑わいの調和の取れた空間として利活用が図られることを目指している。						
利用対象者等	利用対象者：県民及び県外からの観光客等 利用時間：24時間						
施設内容	施設面積 約1.8ha ①緑地（計1.5ha）：芝生広場、緑地内駐車場 ②憩いの広場（約0.3ha）：芝生広場、展望台						
施設の利用料金体系	駐車場（普通車のみ）： 7:00～18:00 1台あたり30分につき50円 18:00～7:00 1台あたり30分につき50円。夜間上限 500円。 施設利用の行為の許可に係るもの 業として写真撮影を行うとき：1件あたり1月につき 6,990円 1件あたり1日につき 500円 業として映画撮影を行うとき：1件あたり1月につき 9,680円 展示会、コンサート等を行うとき：1㎡あたり1日につき 営利）18円、非営利）12円						
類似施設の設置状況	九州各県では、本県と同様の施設で指定管理者制度を導入している施設はない。						
県 予 算	区 分 (単位：千円)		令和3年度 (実績)	令和4年度 (実績)	令和5年度 (実績)	令和6年度 (実績)	令和7年度 (計画)
	財 源	国 庫	1,500				
		その他（ ）					
		一般財源	29,153	28,229	27,500	27,200	26,900
	事業費＜A＞		30,653	28,229	27,500	27,200	26,900
	内 訳	管理運営負担金	30,653	28,229	27,500	27,200	26,900
		その他（ ）					
		人件費＜B＞	1,558	1,530	1,532	1,577	1,576
	合計＜C＝A＋B＞		32,211	29,759	29,032	28,777	28,476
	単位あたりコスト		0	0	0	0	
(説明) 「利用者一人あたりに要する費用」＝C÷（成果指標①利用者数）＝C÷229,888							

3. 指定管理者の概要

指定管理者 の名称等	《所在地》 長崎市下西山町10番18号					
	《名 称》 長崎クレインオアシスマネジメント					
	《代表者氏名》 代表構成員 長崎緑地公園管理事業協同組合 代表理事 赤瀬 憲市					
指定期間	令和 5 年 4 月 1 日 ～ 令和 10 年 3 月 31 日					
業 務	①施設の維持・修繕等 ②施設の利用促進					
利用料金制	■ 導入済 未導入		選定方法		■ 公募 非公募	

4. 成果指標の達成状況及び管理運営に要した経費等の収支状況

成果指標の達成状況	① 利用者数			(目標値の根拠) ①前年度実績比5,000人増 ②前年度実績比5件増 ③施設を安全な状態に維持する		<令和7年度実施における変更点>			
	② 施設のイベント利用許可・届出の日数					変更点なし			
	③ 施設内での管理瑕疵による事故発生件数								
	実 績			令和3年度 (実績)	令和4年度 (実績)	令和5年度 (実績)	令和6年度 (実績)	令和7年度 (計画)	
			単位						
	①	a	目標値	人	197,000	122,555	200,259	228,927	234,888
		b	実績値	人	122,555	195,259	223,927	229,888	
		c	達成率b/a	%	62	159	111	100	
	②	a	目標値	日	33	38	49	84	90
		b	実績値	日	38	44	79	85	
		c	達成率b/a	%	115	115	161	101	
	③	a	目標値	件	0	0	0	0	0
		b	実績値	件	0	0	0	0	
		c	達成率b/a	%	100	100	100	100	
指定管理者 の収支状況		事業計画 (R6)		令和3年度 (実績)	令和4年度 (実績)	令和5年度 (実績)	令和6年度 (実績)	令和7年度 (計画)	
		(千円)	実績－計画						
	利用料金	11,408	▲ 832	8,858	8,692	10,454	10,576	11,934	
	県負担金	27,200	0	30,653	28,229	27,500	27,200	26,900	
	その他	604	▲ 328	61	67	13	276	628	
	収入計a	39,212	▲ 1,160	39,572	36,988	37,967	38,052	39,462	
	支出b	39,175	▲ 1,159	38,517	36,088	37,678	38,016	39,434	
	うち人件費	23,827	▲ 1,927	20,685	21,189	21,900	21,900	24,091	
	収支a-b	37	▲ 1	1,055	900	289	36	28	
配置職員数	常勤	5	0	常勤	5	常勤	5	常勤	5
(人)	非常勤	3	0	非常勤	3	非常勤	3	非常勤	3

※ (注記事項があれば記載)

≪表その2：管理運営負担金の対象事業を定めている場合は、次の表を使用する。≫

指定管理者の収支状況		事業計画 (R6)		令和3年度 (実績)	令和4年度 (実績)	令和5年度 (実績)	令和6年度 (実績)	令和7年度 (計画)
		(千円)	実績 - 計画					
負担金事業	県負担金		0					
	その他		0					
	収入計a	0	0	0	0	0	0	0
	支出b		0					
	うち人件費		0					
収支a-b		0	0	使用しない			0	0
その他事業	利用料金		0					
	その他		0					
	収入計c	0	0	0	0	0	0	0
	支出d		0					
	うち人件費		0					
収支c-d		0	0	0	0	0	0	0
配置職員数		常勤 0	0	常勤 0	常勤 0	常勤 0	常勤 0	常勤 0
(人)		非常勤 0	0	非常勤 0	非常勤 0	非常勤 0	非常勤 0	非常勤 0

5. 令和6年度事業の実施状況・実績の検証

管理運営の状況

計画

実績

<指定管理者実施分>

①施設の維持・修繕等

・施設の維持管理、清掃、植栽管理業務について、事業計画に沿って適正に行う。

・利用者の行為に関する許可、届出の受理、利用料金の設定、禁止行為に関する監視・指導等を適正に行う。

②施設の利用促進

・広報活動、自主事業等を通して、施設の普及・利用の向上に努める。

<県実施分>

・指定管理者について、月1回の業務報告会等を通じて適正に指導、評価を行う。

<指定管理者実施分>

①施設の維持・修繕等

・施設の維持管理、清掃、植栽管理業務は事業計画に沿って行われ、利用者にとって快適で質の高い状態が保たれた。

・利用者の行為に関する許可、届出の受理、利用料金の設定、禁止行為に関する監視・指導等適正に行われた。

②施設の利用促進

・指定管理者のホームページなどを通じて広報活動を行い、自主事業等を通してイベント等開催日の大幅増につなげるなど、施設の普及・利用の向上に努めた。

<県実施分>

・指定管理者について、月1回の業務報告会等を通じて、適正に指導、評価することが出来た。

検証

○当施設用地の維持管理要求水準を踏まえた事業計画に基づき、施設内の樹木、芝生及び花壇等の育成管理やベンチ、トイレ等施設の点検・清掃・補修は適正に実施され、令和6年度に実施した施設の状態に関する利用者アンケートでは「非常に良い」・「良い」といった肯定的な回答はほぼ100%であるなど、快適で質の高いサービスが提供された。

○近年多く見られるウッドデッキ等におけるスケートボード利用や芝生上の自転車走行等の禁止行為に対し、粘り強い指導がとられている。

○ホームページやInstagram等の広報活動により、利用者増につなげるなど、利用者数は新型コロナウイルス感染症の影響が生じた以前（令和元年度）の実績に戻りつつある。

収支の状況

収支計画・実績

<指定管理者実施分>

(単位：千円)

主な項目	計画	実績	増減理由・収支改善の取り組み等
収入 a	39,212	38,052	
うち利用料金	11,408	10,576	イベント利用収入を高め想定（計画）していたことによる減
うち県負担金	27,200	27,200	
その他	604	276	
支出 b	39,175	38,016	
うち人件費	23,827	21,900	
うち維持管理費	7,800	7,748	施設維持費の減
その他	7,548	8,368	
収支a-b	37	36	

<県実施分>

なし

検証

○収入については、イベント利用収入を高め計画していたことにより、実績は計画比減となった。（参考：利用料金実績は前年度比102千円増）

○支出については、施設維持管理費は台風被害等が想定より少なかったため、実績は計画比減となった。

○収入・支出とも実績は計画比減となったが、支出は収入の範囲内支出であるため、収支状況に問題はなく適切に運営できている。

指定管理者制度の導入効果を踏まえた施設の設置目的の達成状況の総合評価

B

○指定管理者制度導入により民間のノウハウを活用し、利用者に対するサービスの確保・向上のため、迅速に効果的な維持管理を行うことができおり、県民が憩い集える場として一定の水準を保っている。

○平成30年度から指定管理者制度を導入した当施設は、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う行動制限のため令和2・3年度は利用者が減少したが、行動制限が緩和された令和4年度以降は利用者数及びイベント日数ともに増加傾向にあり、コロナ禍前の状態に戻りつつある。

6. 令和7年度事業の実施にあたり見直した内容

内 容
賑わいの場の創出を図るため、令和6年度から実施している長崎県産野菜や加工品・ジビエの利活用を掲げた野菜市の定期開催（毎月）や旗揚げ大会など、イベント開催等を通じ施設利用の増加につなげるよう、関係者との接触・協議に積極的に取り組む。

7. 令和7年度事業の評価

※評価区分（a：行われている、b：一部行われていない、c：行われていない）

指定管理者の行う管理運営等に関する評価	視点	評価	判定理由
	・施設の設置目的にあった管理運営が行われているか。	a	利用者サービスの向上や適正な管理に取り組み、施設の補修についても迅速に対応している。
	・住民の公平かつ平等な利用の確保が行われているか。	a	利用の調整について、業務報告会等で協議を行うなど、公平かつ平等な利用を確保している。
	・利用者に質の高いサービスの提供が行われているか。	a	利用者アンケート等を通じ、利用者の意見を踏まえ、質の高いサービスの提供に努めている。
	・施設・設備の維持管理は適切に行われているか。	a	樹木・芝生・花壇その他施設・設備の維持管理について適切に行われている。
	・収入の確保に向けた取り組みが行われているか。	a	他施設の状況を踏まえた利用料金を設定のうえ、収入の確保に努めている。
	・経費節減に向けた取り組みが行われているか。	a	管理コストの縮減に努めながら業務を行い、施設の維持管理の充実が図られている。
	（その他の観点）		
施設の在り方についての評価	視点	評価	理由
	必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・県民ニーズに照らして、事業の必要性が薄れていないか。 ・事業を取りまく環境、経済情勢などの変化に適應しているか。 ・市町または民間に移管・移譲することが適当（可能）ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ a. 薄れていない b. 一部薄れている c. 薄れている ■ a. 適應している b. 一部適應していない c. 適應していない ■ a. 適当（可能）でない b. 一部適当（可能）でない c. 適当（可能）である
	効率性	<ul style="list-style-type: none"> ・県の負担や業務量に見合った活動結果が得られているか。 ・指定管理者制度以外で、同一の県負担や業務量でより大きな活動結果が得られる手法に代えられないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ a. 得られている b. 一部得られている c. 得られていない ■ a. 代えられない b. 一部代えられない c. 代えられる
	有効性	<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者制度は、施設の設置目的の達成に十分寄与する手法となっているか。 ・事業効果をさらに上げる余地はないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ a. なっている b. 一部なっていない c. なっていない ■ a. 余地はない b. 一部余地がある c. 余地がある
	（その他の観点）		

8. 令和8年度事業の実施に向けた方向性

区 分	現状維持	改善	移管	廃止
（説明：令和8年度事業の実施に向けた方向性の理由・見直しの内容） ○自主事業イベントの多角化と規模拡大に向け、関係者に対する営業活動を積極的に行う。 ○当施設から松が枝港国際ターミナルにわたる各指定管理者施設の管理運営者との連携により、賑わいの場の創出を図る。 ○従前から行っている挨拶活動、声かけ、道案内などについて、今後更におもてなしの心を持って積極的に行う。 ○近年、長崎港における国際クルーズ船の寄港者や、長崎駅における西九州新幹線の利用者など多くの方々が当施設周辺を訪問しており、また、当施設は令和5年度には民放ドラマの舞台に選ばれるなど県内外から注目されている。今後県内外はもとより、海外からの旅行者からも一人でも多く「利用したい」、「利用してみたい」と思っていたりするような憩い安らげる場の創出に取り組む、ひいては賑わいの場の創出を目指す。				